

2019年度 テーマII 成果報告会シンポジウム

富山短期大学 成果報告

学校法人 富山国際学園
富山短期大学
小西 孝史

富山短期大学の概要

学校法人 富山国際学園
富山短期大学

食物栄養学科
幼児教育学科
経営情報学科
健康福祉学科
専攻科食物栄養専攻

学校法人富山国際学園
富山短期大学の沿革

昭和38年 学校法人富山女子短期大学設立
富山女子短期大学教養科開校

昭和39年 富山女子短期大学付属高等学校
昭和42年 食物栄養科、保育科の増設
昭和46年 食物栄養科を食物栄養学科に、
保育科を幼児教育学科に名称変更
昭和52年 富山女子短期大学付属みどり野幼稚園開園
昭和57年 商経学科の増設
平成02年 学校法人富山国際学園名称変更
富山国際大学開学

平成04年 富山国際大学付属高等学校
平成08年 福祉学科の増設
平成11年 商経学科を経営情報学科に
平成12年 **富山短期大学**に名称変更
平成17年 専攻科食物栄養専攻の開設

学校法人 富山国際学園

富山国際大学
富山短期大学
富山国際大学付属高等学校
富山短期大学付属みどり野幼稚園

何のためのAP事業か？

目的：教育の質向上と質保証する仕組みを作る

Webシラバスシステムで
学修成果を可視化

教員の成績評価
学生の自己評価
成長度の可視化
到達度の可視化
満足度の可視化
など

PDCAサイクル
授業改善
学生の学修改善
教育課程の改善
ルーティン化

第三者評価
情報公開
フィードバック
教学の透明化
説明責任を果たす

誰に対する何のための学修成果の可視化

学生
学修改善

教育課程
カリキュラムポリシー
の改善

教員
授業改善
学修指導の改善

ステークホルダ
対外的説明責任
PDCAサイクルへ
フィードバック

ディプロマポリシーと学修成果

ディプロマポリシー

育成する人材が身に付けるべき **5つの力** を規定

- 1 実践の土台となる**専門的知識・技能**
- 2 実践を支える**思考力・判断力・表現力**
- 3 生涯学び続け成長するための**主体的に学ぶ力**
- 4 他者を尊重し多様な人々と共に共通の**目標の実現に貢献できる協働力**
- 5 健全で豊かな**人間性**

学修成果の
5つの基準

身に付けるべき
17の具体的な
資質・能力

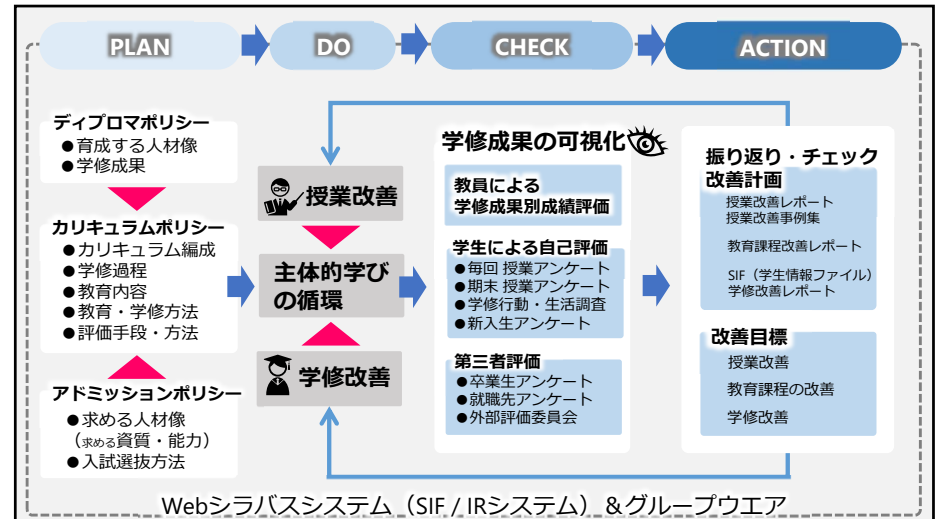
育成する人材像身に付けるべき5つの力	学修成果の5つの基準	身に付けるべき17の具体的な資質・能力	21世紀型能力
1. 実践の土台となる 専門的知識・技能	LO1 知識・理解	1. 幅広い教養・一般常識 2. 専門分野の基礎的な知識	基礎力 基礎的リテラシー
	LO2 技能	3. 専門分野での実践に必要な技術・技能 4. PCや情報機器を操作する力 5. 分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力 6. 分かりやすく文章にまとめる力	
2. 実践を支える 思考力・判断力・表現力	LO3 思考力・判断力・表現力	7. 問題点・課題を発見して論理的に問題・課題を解決できる力	思考力 認知スキル
3. 生涯学び続け成長するための 主体的に学ぶ力	LO4 関心・意欲・態度	8. 自分の適性や能力を把握する力 9. 自学自習する力・習慣 10. 自分で目標を設定し、計画的に行動する力 11. 粘り強さ・持続力・集中力 12. チャレンジ精神 13. 自己の効力感や自信・自己肯定感	実践力 社会的リテラシー
	LO5 人間性・社会性	14. 多様な価値観・考えを持つ人々と理解と尊重 15. 社会的責任の自覚と高い倫理観 16. 地域や社会に貢献する意識 17. 協働して共通の目標の実現に貢献する力	
4. 他者を尊重し多様な人々と共に共通の 目標の実現に貢献できる協働力			
5. 健全で豊かな 人間性			

育成する人材像身に付けるべき5つの力	学修成果の5つの基準	身に付けるべき17の具体的な資質・能力	21世紀型能力
1. 実践の土台となる 専門的知識・技能	LO1 知識・理解	1. 幅広い教養・一般常識 2. 専門分野の基礎的な知識	基礎力 基礎的リテラシー
	LO2 技能	3. 専門分野での実践に必要な技術・技能 4. PCや情報機器を操作する力 5. 分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力 6. 分かりやすく文章にまとめる力	
2. 実践を支える 思考力・判断力・表現力	LO3 思考力・判断力・表現力	7. 問題点・課題を発見して論理的に問題・課題を解決できる力	思考力 認知スキル
	LO4 関心・意欲・態度	8. 自分の 9. 自学自習する力・習慣 10. 自分で目標を設定し、計画的に行動する力 11. 粘り強さ・持続力・集中力 12. チャレンジ精神 13. 自己の効力感や自信・自己肯定感	実践力 社会的リテラシー
LO5 人間性・社会性	14. 多様な価値観・考えを持つ人々と理解と尊重 15. 社会的責任の自覚と高い倫理観 16. 地域や社会に貢献する意識 17. 協働して共通の目標の実現に貢献する力		
4. 他者を尊重し多様な人々と共に共通の 目標の実現に貢献できる協働力			
5. 健全で豊かな 人間性			

可視化の
手段・方法

成績評価 授業アンケート
学修成果別成績評価 他
学生成果別到達度自己評価 他
各授業科目 ルーブリック

新入生アンケート 学修行動・生活調査 第三者アンケート
成長度・到達度の自己評価 他
社会的通用性・到達度評価 他



(毎回) 授業アンケートによる授業改善・学修改善

設問	選択肢
(1) 今日の授業の内容はどの程度理解できましたか。	A非常に良く理解できた (理解度9割以上) Bほぼ理解できた Cあまり理解できなかった (理解度2割以下) Dほとんど理解できなかった
(2) 今日の授業の内容に興味・関心が持てましたか。	A非常に興味を持てた (積極的に自ら学びたいと思った) Bやや興味を持てた Cあまり興味を持てなかった D全く興味を持てなかった
(3) 今日の授業に積極的に取り組みましたか。	A積極的に取り組んだ Bほぼ積極的に取り組んだ Cあまり積極的に取り組まなかった Dまったく積極的に取り組まなかった
(4) 今日の授業に関する授業外学修時間を入力してください。	「分」単位で記入
(5) 今日の授業で、あなたが学んだことの中で一番重要なことは何ですか。	記述
(6) 最後に、どのような疑問が一つ頭に残っていますか。	記述
(7) その他 (感想・意見・要望など)、自由に記述してください。	記述

(毎回) 授業アンケート リフレクションシート

1. 授業の成果を毎回、検証
2. 授業外学修時間 (問4) 確認
3. 問の生成 (問6) に対するフィードバック



次回の授業でフィードバック【個別対応】することで、気づきを喚起

モチベーションUP↑

授業改善のためのPDCAサイクルの定着

(期末) 授業アンケート → 授業改善のための強力な手段

Webシラバスで実施・集計結果は定型フォーマットで出力
教員・学生へ開示

H27年度より **授業改善レポート** を作成

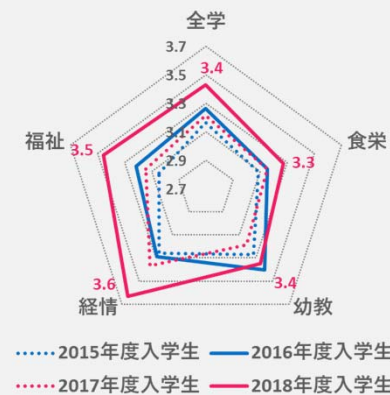
1. 取り組んだ授業改善の概況
2. 課題
3. 改善計画

H28年度より FD研修会で **授業改善事例 報告** 教員間で
授業改善事例集 改善内容・方法等を共有

主な指標に見る授業改善の進展 実績値[%]

	H26年度	H30年度
ルーブリックの導入による成績評価基準の可視化を行っている専任教員担当科目の割合 [%]	未測定	100.0
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合 [%、専任のみ]	41.0	73.2
学生の授業外学修時間を調査している科目の割合 [% (同上)]	44.2	100.0
学期末の授業アンケートを実施する科目数の割合 [%]	44.2	100.0
「授業改善レポート」を作成している専任教員の割合 [%]	0.0	97.5
「授業改善レポート」を作成している授業科目の割合 [%]	0.0	74.5

授業満足度は、おおむね着実に向上



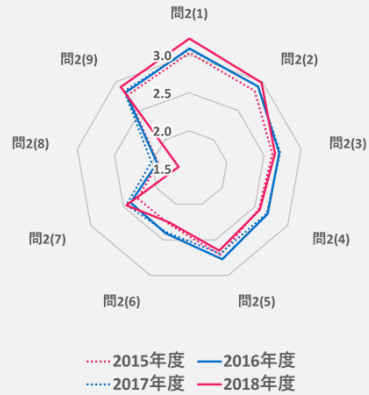
授業アンケート 授業満足度

2015年度～2018年度 全学・4学科

着実に授業満足度は**向上**↑

- 4.0 大いに良かった
- 3.0 幾らかよかった
- 2.0 どちらとも言えない
- 1.0 余り良くなかった
- 0.0 全くよくなかった

アクティブラーニングの増加



授業アンケート 授業形態・方法の工夫

- (1) 教材の工夫
- (2) 学生の意見・考え
- (3) 学生の参加・協働学習
- (4) 体験的な学習
- (5) 小テスト・レポート課題等
- (6) 課題等へのコメント付与・返却
- (7) 「(毎回) 授業アンケート」へのフィードバック
- (8) 個別指導・補習
- (9) 他、「学修成果」を高める工夫

2015～2017年度入学生の学修成果

3年間の「学修成果LO1～LO5」別到達度の自己評価



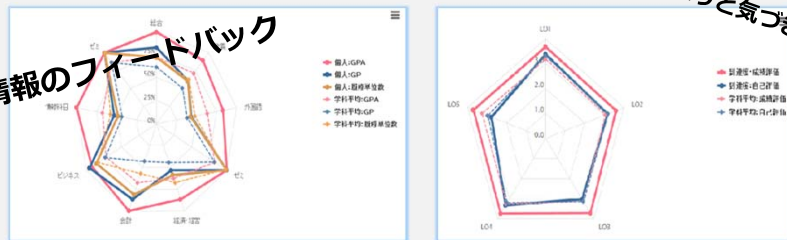
2年間の
「(学期末) 授業アンケート」
の集計結果

- LO1 知識・理解
- LO2 技能
- LO3 思考力・判断力・表現力
- LO4 関心・意欲・態度
- LO5 人間性・社会性

SIF(学生情報ファイルシステム)の活用

情報のフィードバック

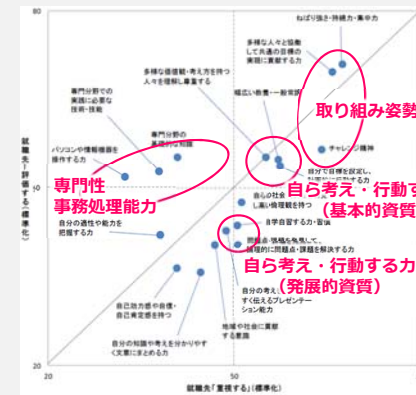
振り返りと気づきの喚起



<自己及び学科平均>, <科目別・科目群別・合計>の「学修成果別」成績・到達度自己評価・GPAの比較表とレーダーチャート

自己と学科平均の成果を振り返り、気づきを促すと共に学修計画等に関する個別指導を実施

第三者アンケート結果



就職先が採用時に重視する資質・能力

卒業生は概ね高い評価

「就職先・卒業生アンケート」の概要
(実施年月) 平成29年12月

送付卒業生:	過去5年間の卒業生	1,719人
回答数(回答率):	266人	(15.5%)
送付就職先:	過去7年間の卒業生の就職先	982先
回答数(回答率):	478先	(48.7%)

【参考】

AP(テーマⅡ)事業における数値目標と達成状況

各大学等の任意の指標		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
1	学修成果別の成績評価の実施割合 [% (実施科目/開講科目)]	0.0	28.8	25.6	39.2	25.6	40.6	80.0	42.0	80.0
2	学生の授業外学修時間を調査している科目の割合 [% (向上)]	44.2	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	80.0	100.0	100.0
3	「学生情報ファイルシステム」等を用いた学生への個別指導実施の割合 [% (対象学生/学生合計)]	未測定	未測定	4.5	4.8	4.5	5.7	13.6	5.0	13.6
4	各科目の評価平均値が基準値以内の割合 [%]	未測定	未測定	60.0	69.8	60.0	60.3	80.0	62.3	80.0
5	授業時に授業アンケートやフィードバック等を用いて学生からの反応を資料として確認している回数/全授業回数の3分の2以上の授業科目数の割合 [%、専任のみ]	36.9	37.7	60.0	52.2	60.0	40.3	80.0	52.2	80.0
6	学期末の授業アンケートを実施する科目数の割合 [%]	44.2	100.0	60.0	100.0	60.0	100.0	80.0	100.0	100.0
7	アクティブラーニングを導入した授業科目数の割合 [%、専任のみ]	41.9	44.7	55.0	58.5	55.0	51.7	66.8	73.2	66.8
8	学生1人当り年間アクティブラーニング科目受講数 [専任科目数]	12.1	13.2	18.0	18.1	18.0	15.4	20.0	28.2	20.0
9	アクティブラーニングを導入した授業形態が「講義」科目の授業科目数の割合 [%、専任のみ]	23.6	33.1	25.0	53.5	25.0	43.5	40.0	59.4	40.0
10	卒業生へのアンケート調査 [有無]	未実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
11	専任教員1人あたりのFD研修参加回数 [回]	1.5	3.1	2.0	8.5	2.0	6.3	2.5	7.8	5.0
12	非常勤講師1人あたりのFD研修参加回数 [回]	0.0	0.2	0.5	0.4	0.5	0.1	1.0	0.6	1.0
13	ルーブリックの導入による成績評価基準の可視化を行っている専任教員担当科目の割合 [%]	未測定	未測定	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
14	「授業改善レポート」を作成している専任教員の割合 [%]	0.0	未測定	95.0	94.7	100.0	97.5	100.0	97.5	100.0
15	「授業改善レポート」を作成している授業科目の割合 [%]	0.0	未測定	63.0	62.8	70.0	67.7	75.0	74.5	80.0